

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2024.4 vol.216

令和6年度 院長挨拶



院長 田中 康博

令和6年度の挨拶を申し上げます。

今年度より、診療報酬改定と医師の働き方改革が施行されました。医療現場にとって大きなターニングポイントとなりますが、きちんと対応を行い、住民の方々の期待に応えたいと思っています。

医師の働き方改革については、どこの病院も対応に苦労しているところも多いようです。当院もスタッフの過重労働に対しては十分に監視し、かつ、医療に支障を来たさぬように注意しながら対応していこうと思っています。鹿児島県の医療機関の中には、対応困難な施設もあるかもしれませんが、密に連携を取りながら、患者さまに不利益を被ることがないようにしたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症がいまだにくすぶって、突発的な流行が観られます。ただ、以前と比べ、弱毒化傾向で冷静に対応していきたいものです。患者さまにとって命に係わる事を最優先にしたいと思っています。一昨年は当院でもクラスターを数回起こし、患者さまが受けられないこともありました。今年度も厳重な感染予防を行いながら、感染症で一般の医療が止まることがないようにしたいと思っています。

今年も多くの職員の異動があり、新しいスタッフを迎え、新しい体制になりました。この「新しい風」が、組織の新陳代謝を起こし、さらに良い医療機関になると考えています。

「がん」

高度ながん治療を行うだけでなく、緩和ケアや様々な患者さまのサポートを行っています。治療を続けながら仕事や学業を行う両立支援をはじめ、がんに係わる様々な相談も行っています。患者さまが納得して治療を受ける医療を目指します。

「脳卒中センター」

新しい脳血管専用の造影室を作ります。現在、脳梗塞や脳動脈瘤に対するカテーテル治療がより迅速に、より安全にできるようになると考えています。

「心臓・大血管」

従来心臓大血管手術、カテーテルによる冠動脈治療、カテーテルアブレーションなどの不整脈治療そしてカテーテルによる大動脈弁置換術(TAVI)や僧帽弁形成術(Mitraclip)など、あらゆる心臓病に対応していきます。

高齢者は多疾患を複数有していることが多く、このようなニーズにも対応すべく「マルチモビディティ(多疾患併存)外来」を始めました。腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、歯科口腔外科もよろしくお願いたします。

今年度も皆さんが満足できる高品質の診療を提供していきたいと思っております。

副院長就任のご挨拶

松崎 勉



この度、4月1日付で副院長と医療安全管理室長を拝命致しました。力不足の感は否めませんが、統括診療部長に郡山先生、臨床研究部長に松下先生が就任されましたので、協力しながら当院の発展ひいては地域住民の皆様の医療に寄与していきたいと思っております。

さて、本年度は診療報酬の改定、医師の働き方改革の施行と病院運営にとっては先行きの読めない状況が生れております。また、病院経営では、コロナ禍からの回復が進んでいかず苦しい状況で、マイナ保険証、電子処方箋等医療DXも待ったなしの状況になっております。耳鼻咽喉科医として、医師及び診療施設が減少している耳鼻咽喉科の手術や入院治療を県内の医療機関の先生方との連携を行ってきたこと、地域がん診療連携拠点病院として緩和ケア・人生会議（アドバンス・ケア・プランニング：ACP）の推進、がん相談支援センターでの活動、医療者目線の電子カルテシステムの構築に目指してきた経験などをもとに、もう少し広い視野で職責が果たせればよいかと思っております。

医療安全管理は、医療の質を保証するうえで重要なポイントですが、学会の医事問題委員会の報告や日本医療安全調査機構の再発防止に向けた提言を見ても、同じ事故が繰り返していることが指摘されています。医療の多様化に伴い、個人の技量では補いきれないこともあるのかとも思いますが、医療の原点に戻り、現場で職員と一緒に医療安全の文化を醸成できればと思っております。

上記、様々な問題から医療の提供は新しい局面を迎えているようにも思いますので、今後も皆様のご指導を賜りながら、医療連携を推進し、地域医療の一端を担えるよう努力してまいりますので宜しくお願い致します。

統括診療部長就任のご挨拶

郡山 暢之



このたび、4月1日付けで統括診療部長を務めることとなりました。その職責に身の引き締まる思いであります。

私は、2006年4月に当院へ赴任して以後18年間、糖尿病・内分泌内科の診療に従事しながら、当院における3本柱である心臓病・脳卒中及びがん診療の下支えとしての院内全科の血糖管理などを行い、言わばインフラ整備に関与させて頂いて参りました。

このような私が指名された理由は、一つには、これまで院内各科と血糖管理を通して横断的に多少なりとも関わりを持たせて頂いてきたこと、二つ目にそれなりに齢をとり長年当院に居ること、そして三つ目に当院を担う次の世代の有能な先生方までの繋ぎの期間が必要であることと思っております。

医療変革の時期で舵取りの難しい今、「院長という運転手が乗り、副院長という高出力エンジンを積み、当院職員という高品質のタイヤを履いた、「鹿児島医療センター」という車が走るでこぼこ道を舗装・整備していくこと、そしてそのタイヤをケアすること」が、私の担うべき役割と心得ます。そして「鹿児島医療センター」が順調に走り続けることを通して、地域の先生方や患者様方にご信頼を頂き、お役に立てるならば幸甚です。

しかしながら、患者様の御紹介こそが「鹿児島医療センター」の燃料となります。先生方のお力添えを何卒宜しくお願い申し上げます。

浅学菲才の身ではございますが、布置された職務に誠心誠意励む所存でございます。

臨床研究部長就任のご挨拶

松下 茂人



この度、国立病院機構理事長発令により、4月1日付で臨床研究部長を拝命しました。現在の皮膚腫瘍科・皮膚科での職務に加えまして、臨床研究部での職責を担うにあたり身が引き締まる思いでございます。まずは長年にわたり臨床研究部を牽引されました城ヶ崎倫久先生のご厚労に心から敬意を表します。

私は研究面においては主に皮膚がんの臨床研究を行なってまいりましたが、今後は当施設職員の皆様が科学的妥当性を持った臨床研究を円滑かつ安全に実施できるように支援する一役を担い、『すべての患者さんの幸福の希求のために、当施設発の新しいエビデンスを創出することで医療技術の向上に繋げ、国民の健康福祉に貢献する』というミッションを掲げて邁進する所存です。

担うべき任務として、①臨床研究推進・支援、②研究に伴うコンプライアンスの監督、③人材確保・育成、④適切な情報公開、に主眼を置いて取り組んでまいります。①については、研究対象となる方々の権利と安全を守りながら、研究者が研究しやすい環境やシステムを整備して、前向き・後ろ向き研究や治験を積極的に推進し、競争的資金の獲得を促進します。②については、研究者に法令や規則の遵守を求め、研究費の適正管理や公正な臨床研究の推進に努め、社会の信頼と負託に応えていきます。③については、関係者や機構本部と情報を共有して、治験等を効率よく進めるために専門職の確保・育成を実践します。また鹿児島大学大学院医歯学総合研究科の連携大学院での医療者育成の役割を果たすために、当施設の高度医療と鹿児島大学大学院の基礎研究との融合を図り、大学院生が先進的かつ包括的な研究を遂行できるように支援して、地域医療に貢献する人材を輩出して社会に貢献してまいります。④については、研究実施の透明性を確保して被験者保護と研究の質を担保するためにも、治験やオプアウト研究などの情報公開を遅滞なく行なってまいります。

甚だ微力ではございますが、臨床研究部に関わる皆様がいよいよ持っていくべきと働ける環境を整えながら、モチベーション高く日々臨床に取り組む当施設職員の皆様が安心して臨床研究の支援を任せられるような組織となるべく精進してまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

マルモ介入はじめました

～まずは生活習慣病を中心に～

Multimorbidity マルチモビディティ（多疾患併存）とは？

2つ以上の慢性疾患が併存している状態で、多疾患併存患者：通称マルモ患者は高齢化とともに増加しているといわれています。

多疾患併存は死亡率増加、QOLを低下させるのみならず、救急受診増加、予定外入院増加や医療費上昇という問題点につながります。また受診回数の増加、ポリファーマシー等の患者負担増加の側面もあります。一方、増え続けるガイドライン、増え続ける内服薬のため、患者さまサイド、医療サイドともに受け入れが追いつかない診療実態にしばしば陥ってしまいます。

ちなみに慢性疾患上位20位は

TOP5 COPD、糖尿病、高血圧、悪性疾患、脳血管障害

TOP10 認知症、うつ病、関節疾患、不安障害、心不全

TOP20 虚血性心疾患、気管支喘息、不整脈、甲状腺疾患、貧血、聴力障害、脂質異常症、肥満、前立腺肥大、骨粗鬆症

となっています。

今後さらに高齢化社会をむかえるため、マルモ介入は重要となってくるのが明かです。

当院は高次医療機関として癌・脳卒中・心疾患の診療を3本柱として運営し、かかりつけ医療機関と連携しながら、多くの患者さまを専門的に診療展開してきました。フォロー中の患者さまの多くはマルチモビディティを有しています。

特に脳血管疾患、心血管疾患の多くが、動脈硬化を基盤としており、その発症予防や再発予防には高血圧、糖尿病、脂質異常症、慢性腎臓病といった生活習慣病の管理が不可欠と考え、内科系診療科を中心に、かかりつけ医療機関とともにマルモ患者をめぐる包括的な診療体制づくりを模索しています。

そして歯周病は動脈硬化疾患、糖尿病と強い関係があり、歯周病も生活習慣病の一つととらえ、当院のマルモチームの特色としても、歯科口腔外科の参入が不可欠と考えました。

まずはマルモ患者の問題点をそれぞれ仕分けすることが重要で、生活習慣病を中心に、糖尿病、高血圧、脳血管障害、心不全、虚血性心疾患、不整脈、甲状腺疾患、肝機能異常、貧血、脂質異常症、歯周病の11疾患を対象に、消化器・肝臓内科、腎臓内科、脳血管内科、循環器内科、糖尿病・内分泌内科、歯科口腔外科と6診療科がタッグを組み、まだ試行錯誤の中ではありますが、マルモ介入の試みを本年1月から始めました。なるべく患者負担が増えないように配慮し、まずはマルモ介入の結果をかかりつけ医、外来主治医に還元し、マルモ患者への診療に役立ててもらうことを目標としています。さらに必要に応じては専門的な診療への連携を潤滑におこなうことを次の目標にしています。

～マルモ患者の診療でお困りのかかりつけの先生方へ～

1年以上の専門医の受診歴がなく、かかりつけの先生方だけではもてあますような患者さまを対象に

尿蛋白（2+）が陽性、腎機能低下がすすむ

血圧管理がうまくゆかない

糖尿病の管理がうまくゆかない

甲状腺機能の異常

血液検査で肝酵素の上昇

便潜血陽性

心電図異常、心雑音がある

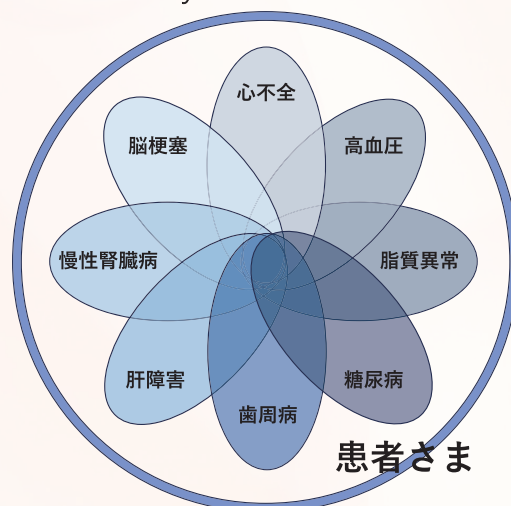
BNPが高い

など複数の問題があるようであれば

当院ご紹介の際に、まずは主科（消化器・肝臓内科、腎臓内科、脳血管内科、循環器内科、糖尿病・内分泌内科）を決めていただき、従来の専門診療のみならず、ご紹介の際にマルモ介入希望であることを診療情報提供書に追加ご記載いただければ、同時並行して、相談・対応させていただきます。

（文責：第1循環器内科部長 片岡 哲郎）

Multi-morbidity



第7回 鹿児島医療センター院内学会

令和6年2月29日(木)・3月1日(金)の15:00から二日間にわたって大会議室で第7回院内学会を開催しました。今年からは働き方改革のこともあり、勤務時間内に行うことにしました。学会のコンセプトは「研究を通じて各部署の親睦を図る」です。

各々の部署で日々どんなことが行われているかは現場にいないと分かりません。院内学会は各部署で行われている研究の一端を知ること、相互理解を深めてもらい、当院の臨床研究を推進する目的で始めました。今年も素晴らしい演題が13題発表されました。内訳は診療部から1題と、臨床研究部から1題、薬剤部から1題、検査科から1題、診療放射線科から1題、臨床工学室から2題、栄養管理室から1題、看護部から3題、看護学校から2題と幅広い部署から発表していただきました。各々の演題に対して活発な討議がなされました。

院内学会に対して行ったアンケートでは「他職種の方の発表は、知らないことが多く勉強になりました」などの意見がありました。

発表後は評価者(院長、副院長、統括診療部長、臨床研究部長、事務部長、看護部長、薬剤部長、副学校長、各群座長)によって厳正な点数評価がなされ、各群の1位は 第I群:診療放射線科 山口英明さん、第II群:看護師長研究会 今吉弥生さん、第III群:臨床研究部(臨床検査科) 梅橋功征さんが選出されました。最優秀賞は梅橋功征さんとなりました。

院内学会はコロナ禍の4年間の空白期間を経て、病院の年中行事として定着しました。来年も盛大な院内学会を開催したいと思います。職員の皆様の積極的な参加をお願いいたします。

(文責:前臨床研究部長 城ヶ崎 倫久)



2月29日(木)

群	順	演題	所属	氏名
I	座長: 診療放射線科 宮島隆一 栄養管理室 中之園妙子			
	1	非造影肺静脈 3D-CT における認識精度の検討	診療放射線科	山口 英明
	2	入院中薬学ケアにより副作用を軽減した症例について薬剤管理サマリーを用いた病院-薬局間の連携が患者満足度向上につながった一例	薬剤部	佐多菜穂子
	3	栄養補給ルートの選択に難渋した中咽頭側壁癌の一例	栄養管理室	井上世雅
II	座長: 副看護師長 大迫朋子 看護学校 西園里美			
	5	ハイパフォーマンスなジェネラリスト看護師のワーク・エンゲージメントに影響する因子	看護師長研究会	今吉 弥生
	6	Driving Surf Protocol 導入後の栄養管理に対する看護師の意識と行動変容~適切な栄養管理を目指して~	東5階	田原 えり奈
	7	クラスターが発生した病棟の看護師が看護師長に求める支援について	看護師長研究会	中本 恵
	8	コンピテンシーモデルを活用した看護管理に関する文献研究~研修等の実践報告を中心に~	看護学校	出口 由美
9	コロナ禍の影響を受けた卒業生の就職後病棟別にみた看護実践能力自信度の比較	看護学校	深野 久美	

3月1日(金)

群	順	演題	所属	氏名
III	座長: 血液内科 鎌田勇平 第1循環器内科 野元裕太郎			
	10	新型コロナウイルス抗原定量検査における判定保留域の検討	臨床検査科	樋渡 まこ
	11	当院における心臓植込み型電気治療デバイスの遠隔モニタリング業務について~現状と課題~	臨床工学室	溝口 将平
	12	IL-33 により誘導された Monocyte Chemoattractant Protein-1 に対するシンバスタチンの抑制効果	臨床研究部	梅橋 功征
13	耳下腺ワルチン腫瘍における異所性唾液腺導管の意義について	病理診断科	後藤 正道	

新任
紹介



皮膚腫瘍科・皮膚科

戸澤 貴久

名古屋市中京病院から2024年3月に皮膚腫瘍科の医員として赴任いたしました、戸澤貴久と申します。初めて鹿児島医療センターで働かせていただきます。不慣れであり、病院スタッフの皆様にはご迷惑おかけすることもあるかもしれませんが、一生懸命がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

メディカルサポートセンター

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

